



つなぐ

「創立40周年記念事業シンボルマーク&メインテーマ」

会員一人ひとりの参加を

理事長 泉 修二

金融破綻の現象に象徴されるバブル崩壊以降の経済は、日本のみならず、韓国やインドネシアに見るまでもなくアジア全地域まで巻き込んでいます。経済社会の反映は建築、インテリア産業に直接跳ね返り、'90年代初めからの長い不況が続いています。企業倒産や社団法人一般の会員減少もこれと無縁ではありません。

一方、私たちの活動が、世界経済や地球環境とも直結しているのも事実です。デザインの領域で20世紀後半を支える一翼を担った私たちが、21世紀に何を手渡し、育てて行けるかを切に望まれている時だともいえます。

本年度の総会を機に、新しい年度が始まります。組織や活動への見直しも、新理事の構成によって第2段階に入りました。また、私たちは創立40周年を迎えています。これらの活動を包括して、協会存在の基盤を明確にすると共に、文化の向上と、会員一人ひとりを含めた産業の発展に寄与することが新理事の覚悟です。

しかし、何といても新しい時代をキャッチするのは会員一人ひとりであり、大きな意義と流れを創るのも会員一人ひとりです。正会員費収入を、何倍もの総収入にすることも、会員諸氏の様々な活動によってですし、金銭に変えられない思想的な動きも、ぜひ、必要な活動で



JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1998

5・6

「目次」

特集／「新生JIDに向けて」

- 会員一人ひとりの参加を 1
- 第30回通常総会を終えて 2
- 新理事の抱負 4
- 支部長に再選されて 6
- 新支部長の抱負 6
- 幹旋業務4件 7
- 受託事業/インテリアコーディネートブック
「食べるインテリア」を刊行 8
- 「JID 賞」を大幅にリニューアル! 8
- 平成9年度第6回理事会報告 9
- JID NEWS関東 12
- JID NEWS中部 14
- JID NEWS関西 16
- JID NEWS九州 18
- 初代事務局長・工藤広忠さんを偲ぶ 20
- 新入会員の紹介 20
- 会員の異動 21
- 委員会活動に積極的にご参加を 23
- 「ペネロップ日本展'98」のご案内 24

● 本部事務局の夏季休暇（予定）

来る8月11日(火)～14日(金)を夏季休暇とさせていただきます。ご不便をおかけしますが、よろしくお願いいたします。
(本部事務局)

す。しかし、残念ながら委員会活動への参加は、全会員の50%に満たないのが現状です。活動への参加は会員の権利でもあり、義務だとも言えます。参加しやすい体質づくりも考えねばなりません。ぜひ、明日への目標づくりと行動実践のためにご参加ください。

オープンな組織、身軽で実効力のある体質づくりと将来のためをお願いいたします。

新事業年度の初めに当たって。

第30回通常総会を終えて 創立40周年記念事業など 全議案を原案通り承認

事務局長 森谷 延周

JID「第30回通常総会」が、平成10年5月29日(金) 定刻より若干遅れて、午後3時40分より、東京・新宿パークタワー8F OZONE・セミナールームで開催された。

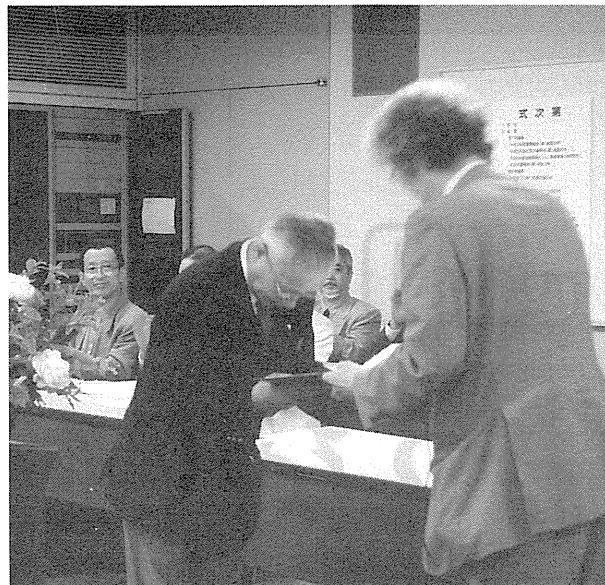
開催時点で正会員出席34名、委任出席326名、合計360名で、定足数を42名超えたことを事務局長が報告し開会した。

総会の議長は、定款によって理事長が務めるよう定められており、泉理事長を指名、挨拶を経て議事に入った。

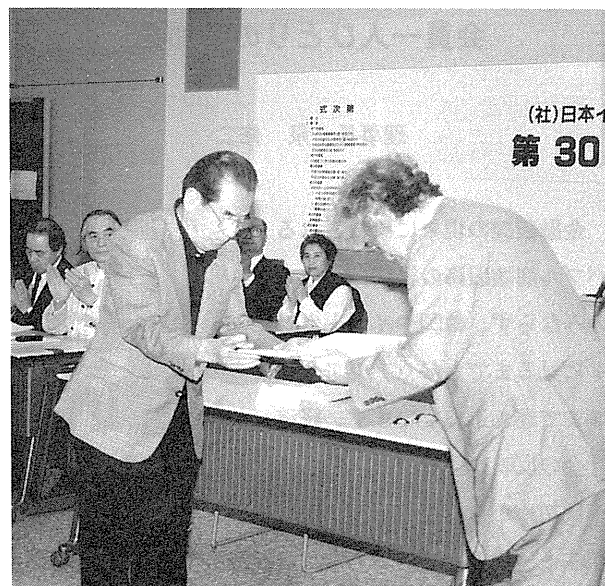
まず、第5号議案を優先し、議事録署名人に入江 満・杉本弥和子両会員を選出した。続いて、議長の求めに従って、森谷事務局長が「総会資料」により順次説明を行った。

次に、第1号議案の平成9年度事業報告(案)、同・収支決算報告(案)、さらに、平成9年度活路開拓ビジョン調査事業(特別会計)収支決算報告(案)を説明後、同・会計監査報告を金子・川上監事を代表して、川上監事が監査結果を報告した。ついで、議長が一括してその承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

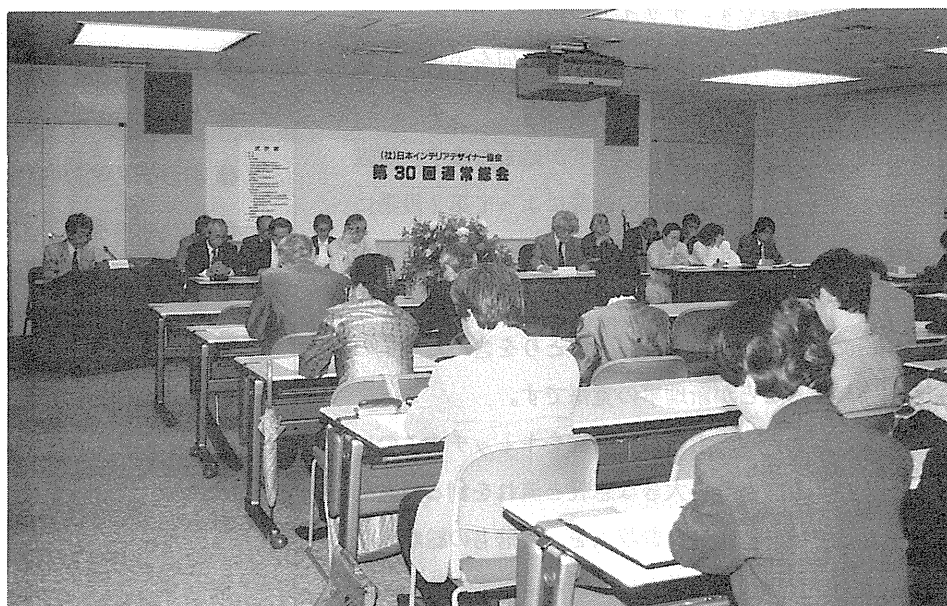
次に第2号議案の任期満了に伴う役員改選の件に移り、事務局長が総会資料に基づいて説明後、泉理事長以下の役



第30回通常総会の席で、感謝状を受けられる
金子誠之助新名誉会員



第30回通常総会の席で、感謝状を受けられる
高薮 昭新名誉会員



第30回通常総会／新宿パークタワー・OZONE・セミナールーム

通常総会

日本インテリアデザ



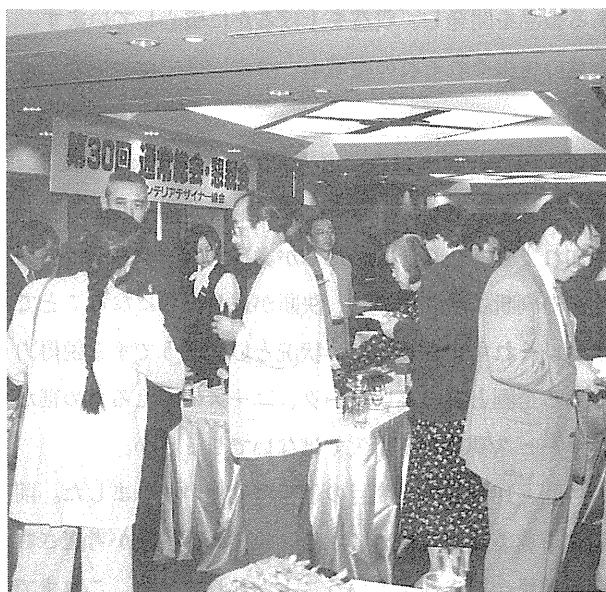
通常総会懇親会の席で、挨拶を述べる
小島幸治デザイン政策室々長

通常総会

インテリアデザイ



乾杯の音頭は、賛助会員を代表して
(株)リビングデザインセンター・松田 啓代表取締役



第30回通常総会懇親会の歓談の1コマ



当日の司会役／秋山修治会員(左)と砂島睦子会員(右)



通常総会懇親会での懇談
(参加者76名)
新宿パークタワー8F・
クラブスクエアにて

員を拍手で承認した。ここで、着席の前役員の退席、新役員の着席を行い審議を再開した。

続いて、第3号議案の平成10年度事業計画（案）、同・収支予算（案）を説明した。若干の質疑の後、議長が一括してその承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

引き続いて、特別会計による特別事業（案）2件、すなわち、平成10年度活路開拓ビジョン実現化事業・事業計画及び収支予算（案）、創立40周年記念事業・事業計画及び収支予算（案）を説明した。ついで議長が一括してその承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

議案の審議終了後、新名誉会員の推挙報告に移り、金子誠之助、高薮 昭、藤本経子、渡辺敏雄会員が推挙された。次に、杉本弥和子会員の介添のもとで、当日出席の金子誠之助、高薮 昭名誉会員に対して、泉理事長より、感謝状と記念品が贈呈され、金子誠之助会員が4人を代表して、お礼の挨拶を述べ、5時20分総会は終了した。

●第30回通常総会懇親会

第30回通常総会と、引き続き行われた関東事業支部第5回支部総会の終了の後、午後6時30分より、同・8F「CLUB SQUARE」において標題の懇親会が開催された。

まず、泉 修二理事長、続いて来賓の小島 幸治通産省・デザイン政策室々長が、取り巻く経済状況への対応、創立40周年始め、今後の事業の推進などを加えて挨拶を行った。

続いて、関連団体の出席者の紹介が行われ、賛助会員の(株)リビングデザインセンター・松田 啓代表取締役が乾杯の音頭をとり、出席者相互の懇親、懇談に入った。

歓談の後半では、中川帛子副理事長が創立40周年記念事業の概要を披露した。そして、最後は、夏原晃子副理事長の挨拶で閉会となった。

当日の司会は、秋山修治会員（本部・総務委員長）と砂島睦子会員（関東・交流委員）が担当した。また、当日の諸準備には、本部・総務委員会（秋山修治委員長）に、関東事業支部交流委員会（栗原満直委員長）と本部・事務局が協力した。参加者は76名、和やかな雰囲気にと終始した懇親会だった。

●総会及び懇親会写真／提供「インテリアタイムス社」

新理事の抱負 受託事業推進へチャレンジ

本部・事業委員会担当理事 木村 戦太郎

間もなく盛夏を迎えますが JID 会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。バブル崩壊以来の長期不況は、一時回復の兆しを見せましたが、今も相変わらず右下がりの状況が続いています。私の主要業務だったオフィス家具業界でも、市場規模は以前の80%と見る向きが多く、小さくなったパイを前に、いかに競争力のある製品を開発し、収益を上げるかに腐心しています。会員の皆様それぞれの職域も、ほぼ同様ではないでしょうか。



日本のユーザーは今、必要とする消費財のほぼ1.5倍の「物」を所有しているそうで、消費の落込みも当然かも知れません。昨今、私たちが業務で直面するのは、発注側の判断に時間が掛り、決断が遅れがちになることですが、それも止むを得ない状況といえそうです。説得力のある企画と質の高いワーク、ニーズに応えるきめ細かいサービス精神が不可欠ではないでしょうか。

今回、18年振り2度目の理事に就任いたしました。前期に事業委員長を務めており、業務の継続性が考慮され、事業委員会担当理事ということとなりました。これまでの事業委員会の業務では、受託事業の実行委員の人選に、一部ご批判があることは承知していますが、発注側が納得し、次に繋る業務企画であった点をご理解ください。また、企画依頼から締切りまでの時間も1週間や10日と短いものが多く、広く応募を募ることを難しくしています。今年11月に発行予定の「会員ワーク集」の意図は、会員皆様の業務の今を、受託事業に結び付け得る点にもあるのです。今後共、ご意見・ご支援をお寄せくださるようお願いいたします。

私事ですが、今春より筑波技術短期大学デザイン学科の教授として、聴覚障害者に生産デザインの指導を始めました。週4講座の準備と言葉の壁に、悪戦苦闘の毎日をお過ごししています。JIDに割ける時間は減りましたが、何とか努力したいと思っています。

新・理事の抱負 取り巻く難問と解決への努力

本部・デザイン保護委員会担当理事 小宮 容一

まことに大変な時期に理事を仰せ付かったと認識しております。協会内外の事情は厳しいものがあります。外では、バブルが弾けた影響の色は益々濃く、景気の低迷に続き、金融不安、政治不信と悪い状況ばかりです。このことは当然、当協会会員の生業に重くのしかかっています。精神的、物質的重圧を緩和するために、協会として支援する何らかの施策が求められます。

協会内の会員の減少、会費の未収、諸経費の負担増加などに対しては、すでに、前期（平成8・9年度）より策が施されてきましたが、さらなる大改革が必要と思われます。

また、国の政策としての法人格の見直し、それに伴う指導の強化に対して、協会として毅然とした方針を立て対処しなくては、協会の目的や会員の利益を、見失うのではないかと危惧しております。

微力ではありますが、以上のような認識を持って努力を惜しまない覚悟です。会員皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



新・理事の抱負 発展のために確実な実行を

関東事業支部担当理事 阪井 良種

この度の役員選挙により、理事に就任することになりました。まずはこの4年間、皆様に支えられ関東事業支部長をさせて頂きありがとうございました。特に、様々な事業を実施して頂いた各委員会の皆様、その努力は昨年度開催の会議回数154回の大きな数字に現れており、4年間のご協力、本当にお礼申し上げます。



今後は関東事業支部担当理事として、本部・支部の一層の連携を図りながら、関東の活発な事業をフォローし、協会の益々の発展のため、微力ながらお手伝いをさせていただきます。

今日の協会は、設立当時と比べて所属会員の職域の幅も広がり、協会に期待される内容も多様になってきております。歴史ある当協会の発展のためには、現在の会員のニーズを的確につかみ、様々な事業・改革を、タイミングを逃さず「確実に実行」することではないでしょうか。創立40周年の時期にあたり、関係業界とも密接な連動を持ち、「孤高」な精神でありながら「孤立」しない協会を目指したいと考えております。

新米理事の1人として精一杯努力する覚悟です。今後共、皆様のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

新・理事の抱負 創立40周年を転換の機に

本部・出版委員会担当理事 山本 棟子

これまで私の生きてきた意識の周辺で、これほど、いろいろなことが大きく変わろうとしていると感じる時代はなかったように思います。



JID も同様にその一つかも知れませんが、創立40周年を契機に、大きく好転することを期待している会員も多いことと思います。

このようなときに、理事という大役をお引受けすることになり、私がどのような力になれるのかと思うと少々気が重いのですが、会員と共に、努力したいと考えています。

そして、協会の存在や活動について、少しでも考える会員が多くなれば、自然に良い方へと向かうと信じています。

なお、出版委員会を担当することになりましたが、委員会のメンバーを募集しています。ご興味をお持ちの方は、熊本光吉委員長、または、私へご連絡ください。

2年間、よろしくお願いいたします。

新支部長の抱負 4つの努力目標

関東事業支部支部長 山下 博之

阪井良種前支部長が新理事に内定し、その後の昨年11月25日、後任の支部長を選ぶため支部代議員会が開かれ、その席で、私が新支部長に選出されました。



思い返しますと、11年前に協会へ入会させて頂き、すぐ30周年記念事業の役をやらされ、何も分からず右往左往し、協会に対して何故？何故？の連続でした。そして、40周年を迎えるこの年、最大会員数を抱える関東事業支部長にと、何の能力も見識も無い私に又、何故？何故？だったのです。

ただ当時と大きく違うのは、今までの支部長や委員長のご努力下、現在の関東事業支部は、強い組織と優れた知恵で、自由闊達な雰囲気の中で活発な委員会活動・各種事業が楽しく行われています。

私でも、阪井担当理事・優秀な各委員長・委員の皆さんのご指導ご協力があれば、会員の皆様と私の何故？何故？が少しでも解決できるかもしれません。

新支部長として、以下の4点を努力目標としながら、阪井前支部長の考えを拡大継続して行きたいと思います。

- 1) 開かれた関東事業支部・開かれた委員会を目指す。
- 2) JID の社会性の向上・認知度の向上。
- 3) JID 会員及び対外部への効率の良い情報発信と事業活動への参加者の拡大。
- 4) 40周年記念事業への協力と参加。

最後に支部長に選ばれた責任を重く受け止めています。が、代議員の皆様も選んだ責任があります。今後共、ぜひ、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

支部長に再選されて 新生JIDと私たちの責務

中部事業支部支部長 安藤 清

いずこの協会にも同じことが言えるが、組織の長期人事は、完全に組織の硬直化を来し、マンネリの何ものでもない、日頃の会合時にくり返し言って



いるにも拘わらず再選とは、裏工作が上手くないのを自問しながら、されてしまったのが実情である。

若い方を勧誘しても、他に増え過ぎた「資格者団体」の魅力度を言われ、（私も同調）返す言葉も失ってしまう始末。30数年、建築の真っ直中で戦って来たが、ジャンル分けの出来ない一つの建物の中で、余りにもインテリア業界の分散化が横行してしまったのが、実情ではないかと思う。

社会の変革の真っ直中にいるが、この分散したインテリア業界における各協会の統合化といったことを、JIDが取り仕切れないものだろうか。各行政の「資格」で仕事が取れる訳でもなし、職能団体のメリットを謳歌し、それには各人特異のジャンルのキラ星となり、インテリア業界の団結が必要な時期到来と思う。40年の節目を迎え、異業種団体と日本インテリアデザイナー協会が大人の付き合いを継続するため、決してJIDを無くす訳にはいかない。

歴史のない我が国において、先輩方の涙ぐましい戦いで築かれたインテリアデザイナーの基盤をもっと眞摯に受け止め、継続発展が私たちに課せられた責務である。理事も一新し、（もっと若い方の登用が必要）新生JIDのために、皆様とより団結し、社会認知へ向けて心を新たにしています。

新支部長の抱負 新たな気持による問いかけ

関西事業支部支部長 佐々木 恵子

新支部長就任を機に、改めてJID のあり方と、その将来を少し考えてみます。

創立以来、多くの先輩方が、その時代を背景に活動을續けてこられました。そのとき、そのときの会員の意欲、姿勢、社会の状況、人々のデザイナーに対する期待などによって、その活動は力を得て能力を発揮してきました。

40年の間に培われた有形無形の財産を受け継いで、いま私たちは何をしようとしているのか。JID という団体でできることはあるのか、ないのか。社会は私たちに何を期待しているのか。どうすれば元気なタノシイ会になるのか、等々。記念の年を迎えて、気持ちを新たに全員で問い直すことが、今年の大きな課題だと考えます。



関東、中部、関西、九州の各支部が、それぞれの場で最適なあり方を探り行動する。支部独自のユニークな活動が、少しずつ結実することを優先させたい。さらに、支部間の情報交換と交歓から、将来へ向けての新しい道が開けるのではないかと、そんなことを考えています。

いうまでもなくJIDの屋台骨は、会員の支部での活動（事業）です。良質で円滑な活動を本部が支持し、世界への発信の役割を担う。私たち関西事業支部は、今、もう一度この原点に立ち返って活動を継続します。

新支部長の抱負 新鮮な発想による事業活動の展開

九州事業支部支部長 川崎 泰秀

？：小生が……。予測だに
しませんでした支部長の要請で
した。今年から九州事業支部の
役員選挙規定が改訂され、役員
の任期は1期2年で、連続2期
までとなりました。従って過去4年、あるいは殆どそれ
以上、役員として当支部を支えて来られた諸先達が、今
期は、任務から開放されることになったため、経験も乏
しく、能力・見識もその器でない小生が、逡巡を繰り返
しながら大役を拝命することになりました。



過去2年間、展覧会事業に関わり、折しも「福岡デザインリーグ」が立ち上がり、当支部の窓口として行政とデザイン関連諸団体との討議、調整、コラボレーションを遂行してきましたが、自然発生的に横軸のネットワークの萌芽が膨らんできています。当支部として独逸色を出しながら積極的に協力し、より良いコラボレーションが出来得るか否か、今後問われてくるものと思います。このような動きに、支部組織として真剣に検討し、機動的に対応してゆくことが大切であると、現代が問いかける諸問題と同質的に認識します。

一方、創立40周年にあたり、記念事業の「日本の近代デザイン展」（仮称）の九州開催を実現させるべく、ただちに具体的検討に着手したいと思います。また本年は、隔年開催の「九州インテリアデザイン展」の企画も控えていますが、概要の決定を早めて、より多くの作品出展を期待したいと考えています。

組織的には、会員の拡充を日常的に行い、特に若い層の入会を切望し、地方委員会の活動を問い掛けたいと思

います。始めて任務を負う役員の方が半数ほどおられますが、新鮮な発想でインパクトを与え、且つ各活動を強く推し進めて頂きたいと期待しております。特に鐘ヶ江前々支部長には、無理に副支部長をお引き受け頂き、不慣れな執行部にとりまして大変心強く思っているところです。前役員をはじめ会員の皆様には、困難な時代ではありますが、是非とも何らかの形で力を貸して頂き、培って来られた九州事業支部を継承発展させ、2年後の2000年の節目を確かな視点で迎えたいと念じております。

幹旋業務 4 件

協会に個人・企業などから、業務担当者の紹介、幹旋などの依頼があった場合は、一定のルールによって処理しています。急ぐ場合の対応の原則は、おおよそ以下の3つとし、それ以上のことはタッチしておりません。①協会内のルールを説明する。②会員名簿の購入を勧め、人選は先方に任せる。③先方から特に人選依頼があったときは、与条件を確かめ、複数の候補を示し、あとの人選は先方に任せる（個人の指名は一切行わない）以下、この数カ月内に発生したものをご報告いたします。なお、今後の人選に際しては、既・受託事業希望登録リストとの関連も配慮する必要があるかと思われます。

●3月19日、(株)エフエム東京・技術開発部より、スタジオフロア改装に伴うインテリアデザイナー約30人の紹介依頼あり。（1週間位の内に）在京など、一定の希望条件の中で、28名の会員を紹介した。

●3月23日、フジテレビ制作部より、木工細工指導のバラエティー番組出演者1名の紹介依頼あり。（2～3日以内に）在京を条件に3名の会員を紹介した。

●4月2日、全研本社(株)より、工務店を対象に、内装に関する一般知識外の講義の講師1名の紹介依頼あり。（5～6日以内に）在京など、一定の希望条件の中で、4名の会員を紹介した。

●4月6日、個人の方（都内文京区在住）より、小レストラン出店に伴うインテリアデザイナー4～5人の紹介依頼あり。都内にオフィスを構え、男性に限るなど、一定の希望条件の中で、6名の会員を紹介した。

（注）ルールについては、JID NEWS 1997年8・9月号掲載の「業務の受託・幹旋に関する細則」を参照してください。今回の件は、第3条(1)により、対応いたしました。（事務局長 森谷 延周）

受託事業／インテリアコーディネートブック 「食べるインテリア」を刊行

本部・事業委員会委員長 中田 重克

(社)インテリア産業協会からの委託によって始められたこの出版計画も、その依頼の話があってから約2年という歳月が流れ、ようやくその刊行を見ることができました。「食べるインテリア」というタイトルを付けたのは、一般のユーザーに、インテリア環境における「食生活をどのようにしたいか」という手助けになればという目的からです。

さて、この企画の中で、なによりも苦労したことは、編集ということについて、選ばれたメンバーのレベルが違ったことでした。勿論プロの出版社のように行かなくても、メンバーの夫々が編集能力を発揮出来ればそれで良かったのですが、そうは簡単には行きません。しかし、そのことを乗り越えてこそ、JIDの受託事業が成立つのですから、そのためには真剣でした。とにかく会議中、無駄口はたたかず、コンパットの鬼軍曹ながらの憎まれ役を貫き通して、ようやく安心したというわけでは、

経験して解ったことは、受託事業としての出版ワークは、様々な困難を乗り越える連続であったということです。ともあれ、人選問題から、編集方法、そしてフィニッシュのデザインなど、それぞれ手探りの状況の中で、なんとか編集委員の皆様にも一応納得のゆくものになったのではないかと考えています。このことが JID のメンバー諸氏にも伝わるものであれば良いと考えますが、何分にも会員に無料配布という訳にはいきません。お求めの方は「見本」が本部事務局にありますのでご覧頂き、その上で、(社)インテリア産業協会に直接お申込みください。単価は1部1,000円(送料含む)です。

(☎03-5379-0021)



なお、同時進行したコーディネーター向けの「収納と空間構成」は、現在進行中です。

JID としての受託事業は、有料のワークをその都度選ばれた会員によって行い、その報酬の一部を協会にプールするというシステムです。今後、様々な受託事業が拡大されれば、多くの会員に携わって頂くことになり、また、会費の軽減などといったことにも繋がれば、なお良いと思います。次期の事業委員会としても、それがひとつの目的ですので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いしたい次第です。

「JID 賞」を大幅にリニューアル！

選考委員会委員長 清水 忠男

協会が創立40周年を迎えるのを機に、「JID 賞」を大幅にリニューアルします。「JID 賞」は、基本的に日本のインテリアデザインの質の向上に寄与することを目的としていますが、とすれば、まず、会員自らが切磋琢磨するための場でもあるべきだ、と考えたからです。対象領域を、より広げ、受賞件数も増やすことによって、「JID 賞」が「雲の上の存在」ではなく「頑張れば自分にも受賞の可能性がある」というものになり、互いに刺激を与え合う機会になれば、と願っています。

具体的には、受賞点数を、従来の各部門1点から各部門3点に増やし、地域への貢献や、ユニバーサルデザイン／健康な居住環境づくりなど、時代の求めているテーマに対する有効なデザイン提案に対する特別賞(数点)や、将来の発展につながる意欲的な試みに対する奨励賞(数点)などが新たに設けられます。

今回からは、審査経過の詳細な報告も公表するつもりですし、できれば、入賞作品の展覧会も行いたいと考えておりますが、創立40周年記念式典に合わせて執り行うことを目指している表彰式ともども、このあたりは、選考委員会のみでできることではありません。ぜひ、他の委員会などのお力添えをお願いしたいところです。

詳しくは、同封の「応募要項」を、ぜひ、ご覧ください。幅広い領域から、多くの力作の応募を心待ちにしています。

【 平成9年度・第6回理事会報告 】

①会議名：平成9年度・第6回理事会

②日 時：平成10年3月24日(火) 13:30～17:00

③場 所：リビングデザインセンター

OZONE 8F セミナールーム(B)

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中(本人出席14名)

(理事長) 泉 修二

(副理事長) 中川帛子、山口道夫

(理事) 浅野盛治、今崎 務、岩倉榮利、

栢原秀榮、吉良ヒロノブ、

関 里繪子、中川千年、中川千早、

長岡貞夫、夏原晃子、

森谷延周(事務局長)

(委任状) 福田友美

(監 事) 川上信二、金子誠之助

オブザーバー(次期役員)

木村戦太郎、小宮容一、阪井良種、

山本棟子(欠席)

⑤議 題

I. 議 案

第1号議案 平成10年度事業計画及び収支予算(案)

承認の件

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

第3号議案 会員入退会承認の件

第4号議案 議事録署名人選任の件

II. 報告事項

- (1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- (2) 平成9年度事業報告(案)及び収支決算見込み
- (3) 平成9年度年会費未納状況
- (4) 日本デザイン団体協議会事務局長会議報告
- (5) 著作権使用料分配金(出版者著作権協議会)について
- (6) 第30回通常総会までのスケジュール
- (7) その他

⑥ 議 事

森谷事務局長より、前回と同様に今回も、理事長の意向により、新年度からの協会運営の円滑化を図るため、次期役員予定者のオブザーバー出席を依頼した旨報告。続いて事務局長より「理事総数15名中、本人出席14名、

委任状1名で本理事会は成立した」旨報告。泉理事長体調不良のため、山口副理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 平成10年度事業計画及び収支予算(案)

承認の件

冒頭に、理事長より同案作成の基本的捉え方を述べた。主な内容は次の通り。

- 1) 各支部事業補助費の平成8年度時点への復活。
- 2) 出版委・定款改訂委の設置。
- 3) 人件費など管理費の削減。
- 4) 会員入退会数予測の前年並み設定。
- 5) 特別会計による活路開拓ビジョン実現化事業及び創立40周年記念事業の設置。

続いて、事務局長より資料に基づいて予算編成会議の開催、主な検討事項、平成10年度会計区分及び、同案の説明を行った。その中で、会費収入(案)の内、正会員の入会予測数36人については、内外を取り巻く諸状況から、難しさを指摘する発言があった。理事会は様々な討議を行い、「会費の収入の内、正会員の入会予測数を原案の2分の1とし、別途、収支の修正を行う」といった修正案について採決を行った、その結果12対3(後者は委任状1通を含む)により、修正案を可決した。そのほかの討議結果は次の通り。

- 1) 現行の年会費の減額などに関しては、定款改訂を絡めながら、次年度以降の検討課題とする。
- 2) より一層、事業の活性化を図る。
- 3) 創立40周年記念事業(特別会計)収支予算(案)は、現段階では不確定要素が多いため、提示案を撤回し、バランスを基本に再考した上で、通常総会に示す。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記10件について説明した。

議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「チャールズ・レニー・マッキントッシュ展 後援・新
1998年4月5日(日)～6月7日(日)

主催 飛騨高山美術館

◎「'98 JAPAN SHOP『テーマ展示』 後援・新
1998年3月3日(火)～3月6日(金)

主催 (社)日本商環境設計家協会

◎「セミナー『超高齢社会の福祉工学—人にやさしい環境づくり』 協賛・新

1998年6月10日(水)

主催 福祉工学研究会

◎「第46回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋'98」 協賛・継

1998年9月2日(水)～9月4日(金)

主催 (株)ビジネスガイド社

◎「イタリアンデザインの巨匠アキッレ・カスティリオーニ」 後援・新

1998年6月9日(火)～7月10日(金)

主催 新津市文化振興財団

◎「第9回照明フォーラム『light heating 一心と体をいやすあかりー』」 協賛・継

1998年6月16日(火)

主催 照明学会東京支部

◎「第6回東京国際額縁と絵画フェスティバル」 後援・継
1998年10月2日(金)～10月3日(土)

主催 TAFF実行委員会

◎「第1回インテリア ライフスタイル」 後援・新
1998年10月14日(水)～10月16日(金)

主催 メッセフランクフルト(株)

◎「Pioneer 20th Centuryシャルロット・ベリアン展」 後援・新
1998年10月3日(土)～11月3日(火)

主催 シャルロット・ベリアン展 実行委員会

リビングデザインセンターOZONE

◎「デザイン・コンペティション'98海南」 協賛・継
1998年4月1日(水)～1999年3月31日(水)

主催 海南市、海南デザイン・ビエンナーレ実行委員会

第3号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記34件について説明した。

議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員(1件)

氏 名	支部	保証推薦人
福田 健 策	関東	長岡 貞夫・大野 敬二

入会 賛助会員(1件)

氏 名	支部	紹介者
(株)丸光商店	関東	中川 千年

退会 正会員(24件)

氏 名	支部	氏 名	支部
池 崎 照 夫	関東	松 浦 弾	関東
板 倉 信 子	関東	森 田 博 子	関東
太 田 正 基	関東	山 本 信	関東
菊 地 隆 夫	関東	山 本 桂	関東
軍 司 敏 江	関東	大 橋 義 博	中部
今 野 克 彦	関東	寺 井 洋 介	関西
佐々木 信 吾	関東	橋 田 裕 司	関西
陶 山 由 美	関東	土 師 義 昭	関西
瀧 本 英 男	関東	茂 島 良 介	九州
中 川 誠 一	関東	坂 下 昌	九州
堀 切 裕 子	関東	鈴 稚 隆	九州
真 下 優 子	関東	森 田 紘 章	九州

退会 賛助会員(8件)

氏 名	支部
東京シンコール(株)	関東
三井デザインテック(株)	関東
細田木材工業(株)	関東
(株)かじ新	関西
愛知(株)	中部
刈谷木材工業(株)	中部
ミリケン・ジャパン(株)	関東
丸福繊維(株)	関西

第4号議案 議事録署名人選任の件(2名)

議長は栢原秀榮、吉良ヒロノブ両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

各事業支部及び本部各委員会事業推進状況について、各担当理事が資料に基づいて報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部(吉良)

シンポジウム「健康な住まいと素材」(本部・教育委、交流委共催/2月25日)など、健康をテーマにしたものは集客度が高いということが理解できたこと及び、第6回「デザイン職人四方山話」「BOSH」最終号などの計画を中心に報告。

●中部事業支部（関）

去る2月7日、北陸部会を開催し、福井美術館見学やIFI '97 アイルランドと国際会議などの報告を行ったこと及び、「インテリア中部学生賞」の選考方法、表彰などについて報告。理事会は後者に対して、協会として「賞」を設定する以上、一定のルールが必要であるとし、関西事業支部の「学生の会」の動きと合わせて、今後、理事長、総務担当理事、事務局長間において検討することとした。

●関西事業支部（夏原）

去る3月6日、臨時運営委員会を開催、次期新支部長に佐々木恵子会員を選出（内定）したこと及び（財）国際デザイン交流協会主催第9回国際コンペ（テーマ：編む）の最終審査委員に、IFI 役員も加わっていることを報告。

●九州事業支部（中川千年）

去る2月7日、役員選出会議を開催、次期新支部長に川崎泰秀会員を選出（内定）したこと及び、支部活動活性化のために、各地区委員会組織にしてはどうかといった意見があることを報告。

●選考委員会（長岡）

去る3月6日、新旧合同委員会を開催、互選により、次期選考委員長に清水忠男会員を選出（内定）したこと及び、応募要項の改良に関して、同委員長のドラフトを基に、来る4月6日に委員会を開催し、検討する予定と報告。

●総務委員会（栢原）

「'98 NEW YEAR'S PARTY」の結果報告及び、去る3月12日、当委員会と40周年式典・祝賀会委員会の合同会議を開催、基本計画の検討を行った旨報告。

●組織委員会（中川帛子）

特に進展がないことを報告。

●国際委員会（浅野）

本年9月開催予定の「APSDA '98 クアラルンプール会議」に、JID からの代表派遣を表明した。今後の取り組みについては、商環境設計家協会と協議の上、進めていきたいと報告。

●交流委員会（岩倉）

去る2月25日、シンポジウム「健康な住まいと素材」開催について、本部・教育委に共催したこと及

び、受託事業／山陰夢みなど博「淀江町ブース」収支報告を行った。なお、「デザイン供養」の事業は、今後、他県でも実施したいと考えていると述べた。

●広報委員会（山口）

賛助会員への聞き取り実態調査を、委員が実施しているが、後日、「報告書」を提出したい。さらに、40周年記念事業に関して媒体リストを作成していきたいと報告。

●事業委員会（福田）

福田担当理事委任出席のため、木村新理事予定者が代理報告。

受託事業「JAPANTECH '98」企画展示の収支報告と次回 '99年参画の可能性及び、受託事業ICブック発行（一般用4月中旬、プロ用6月中旬）の目途、JID 会員ワーク集掲載申込状況などについて報告。

●教育・研究委員会（中川千早）

去る2月25日、シンポジウム「健康な住まいと素材」開催し、盛況裡に終えたこと（参加者79名）及び、活路開拓ビジョン調査事業の「報告会」を2月23日（東京）2月24日（大阪）に開催。同「実績報告」を3月9日、同「報告書」を3月17日、それぞれ委託先に提出して同事業を終了したことを報告。

●デザイン保護委員会（今崎）

3月中に委員会を開催し、今後の取り組み方などについて意見交換を行い、次年度以降の引き継ぎに備えたいと報告。

議長は報告事項(1)について了承を求め、理事会はこれ了承した。

(2) 平成9年度事業報告(案) 及び収支決算見込

(3) 平成9年度会費未納状況

(4) 日本デザイン団体協議会事務局長会議報告

(5) 著作権使用料分配金(出版者著作権協議会)について

(6) 第30回通常総会までのスケジュール

(7) その他

上記、報告事項(2)～(7)については、所定の時間を超過し、報告未了状態となったため、事務局長より、各理事は配布資料を後刻確信することとし、その内容報告については、後日、事務局長から正副理事長に報告することの一任が提案され、議長は提案に関して了承を求め、理事会はこれ了承した。

第6回デザイン職人四方山話
「佐々木達三さん」の記録を終えて

関東事業支部出版委員会委員長 丸谷 芳正

3月末頃、山下博之副支部長より「四方山話」のビデオライブラリー開設に伴うビデオ制作のため、関東の出版委員長になって欲しいとの電話がありました。まだ、昨年の7月に入会して間もない自分に、本当に出来るだろうかと心配でしたが、頼まれると断れない性格でお引き受けすることになりました。

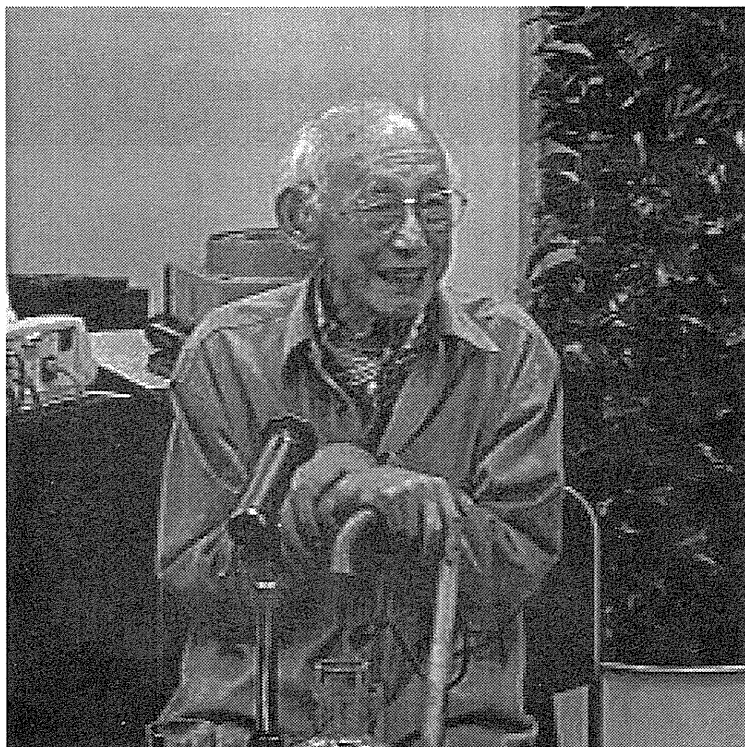
それまでは、入会して何もしないのは、もったいないので、声をかけて頂いた栗原満直交流委員長に誘われて、交流委員として活動していました。だが実際には出席するのがヤット。今まで、仕事一途365日働いてきたので、仕事以外の仕事を、どういう風に時間をスライスすればそれが出来るのか、結局は熱い思いと会員同士の心のつながりが支えているのだなあと、納得したのを思い出します。

そんなわけで、初仕事は、去る5月8日（金）INAX アークプラザ7F セミナールームでの第6回デザイン職人四方山話「佐々木達三さん」（日本の近代デザインを築く）のビデオ撮りとなりました。今回は宣伝期間が短く、しかも参加費が1ヶ月前に変更されたこともあり、どれ位参加申込者が確保できるか心配されましたが、当日の会場は、佐々木さんのお話を聞こうという熱気に溢れ、用意した席は殆んど埋まっていました。

最終的には51名の参加者があり、参加者の数としては、まずまずの及第点でした。

特に嬉しかったのは、学生が17名も含まれていたことです。やはり、JID と社会との関わりを深めて行くには、これからの世代に対してもアピールして行かなくてはなりません。デザインの仕事の重要性と社会性は、こういう機会を通して広がっていくのだと思います。

それにしても、佐々木達三さん（JID 名誉会員）のお話は素晴らしく、力に溢れていました。船舶時代のデザイン黎明期に始まって、プラスチック、接着剤、有名な「スバル360」、ディスアビリティのお話までの2時間という時間では、とても足りなく感じられました。コーディネーターの中川千早さん、司会の立原俊郎さんには、お疲れ様でした。佐々木さんの溢れ出すお話を、何処で止めようかと苦労されたのですから。



話が弾み、思わず微笑む佐々木達三さん（VTRより）

最後に、今回の記録ビデオの編集が終わりましたら、会員の皆様に配布（有償）しようと計画しています。予定では次回の JID NEWS に掲載するつもりです。

その当日に、参加したくても都合で参加出来なかった方が、沢山いらっしゃると思います。また、遠距離といったこともあるかと思います。51名だけが佐々木さんのお話を聞くのは本当にもったいない！そんな意味もあって、ビデオ編集をしていますので、ぜひ、その節はご注文の程よろしくお願いいたします。

（実は、ビデオ編集機材が殆どないのです。今年度予算の中で、最低限必要なビデオデッキだけは購入しましたが、もう少し機材が欲しいと思っています。もし、今回沢山のご注文が得られましたら、その一部を機材購入費に当てようとも、密かに思っています。そして、過去5回目までの「四方山話」をまとめていこうと思っています。）



左より中村 昇・筆者・佐藤清子・間 博信・小林 謙会員で2次会の席

「札幌にて花見会」

関東事業支部会員 中村 基一郎

去る4月26日午後6時より、札幌東急インプラザ2Fの居酒屋『越後屋』にて、JID 関東事業支部の北海道会員5名が参加し、美味しいお酒と料理を前に楽しいひとときを過ごしました。

旭川にほど近い美瑛に住む私は、初めての参加で少し緊張気味でしたが、間 博信さんのユーモアのあるトークや、小林 謙さんの海外体験談を聞きながら、時の経つのを忘れる思いでした。

中村 昇さんの静かな語りや、佐藤清子さんの華やかな雰囲気では、会が進み、これからの JID がいかにあるべきか、「北海道事業支部」は実現するのか、さらに、デザイナーの報酬にまで話が進み、中央から離れている私にとっては、とても有意義な会合となりました。

普段、本部とのコンタクトがあまりない者としては、ほかの会員の様子など、「JID NEWS」だけでは得られない情報を、互いに吸収し合うことが出来ました。

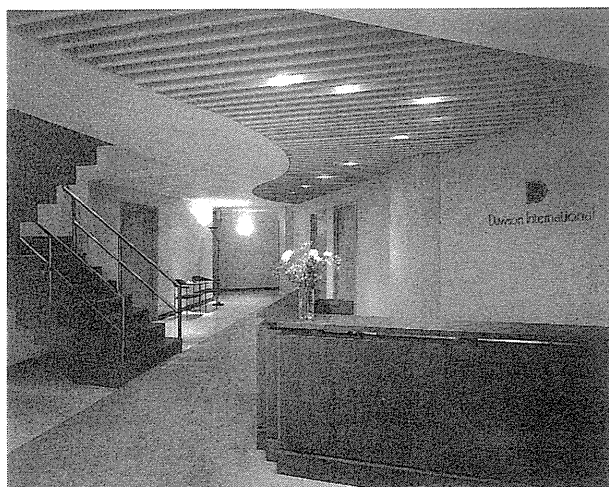
今後は、より多くの会員が集まり、JID のデザイナーの力を高めるため、意志を出し合う場としようと、次回の集まりを楽しみに約束して、散会となりました。

ニューヨークでご活躍の
日本人デザイナー

中部事業支部総務委員 渡部 式部

NYでご活躍のインテリアデザイナーで、しかも私が以前より注目している橋本オサム氏とその作品についてご紹介します。

去年NY滞在中に、ソーホーにあるオフィスに、氏をお訪ねしてみました。華奢な風貌、穏やかな語り口の氏は、在米25年程にもなられるそうで、現在はHashimoto & Partners, Inc. New York, NY. の代表であり、インテリアデザイナーとしてご活躍され、商業施設やオフィスビルあるいは医療施設や住宅まで、幅の広いデザインを手掛けられていると伺いました。作品を拝見すると、全体的なデザインは、NYアーバンティストながら、スッキリと品良くまとめられていました。また、作品によってはアシンメトリーなデコレートが見られたり、色や素材の統一、無駄を排した単純化の美といったものなどから、やはり日本的な美意識を感じ取ってしまうのは私だけでしょうか？ 橋本氏は大阪にもオフィスを設けておられ、まさに米国と日本を股に掛け、豊富なキャリアと有力な企業をクライアントに抱えて、大変ご活躍のご様子でした。



オフィス・DAWSON INTERNATIONAL入口
Hashimoto & Partners, Inc. NY.

人や地域を繋ぐ橋

中部事業支部総務委員 奥山 壽一

“匠の里”と呼ばれる自然に囲まれた素朴な町「岐阜県笠原町」、この町を流れる笠原川に架かる「大掠橋」のリニューアルデザインを依頼され、総合プロデュースをさせていただきました。

笠原町は陶器とタイル産業の町ですが、今回のリニューアルに際して、新しい方向性としての産業活性化と、橋と流れる川の環境意識の向上をコンセプトとし、町民の参加といったことも含めて取り組みました。

専門家の立場で企画デザインに関わり、民間グループからの材料協力や、地元小学生のタイルデザイン参加、大掠地区民の花・プランター設置等、そして行政のバックアップ、これが公共事業遂行の一つの方向性だと思います。

町内には、ほかにも多くの川があり、沢山の橋があります。この橋を様々な活性化の媒体として位置付けられればと考えています。この仕事を通して、今後、行政・住民・専門家がそれぞれの立場で、しかも同レベルで、プロジェクトを組み、事業対応を行っていく必要性を感じました。



笠原川に架かる「大掠橋」

中部事業支部支部長 安藤 清

ところでこのように自然食主体にも拘らず末娘が高1のとき、アトピーが出た。しかし、薬に頼らず心と食事
で治すという究極の精進料理が我が家を謳歌しはじめた。
現在の飽食時代、必要以上のカロリーを摂り過ぎ、本

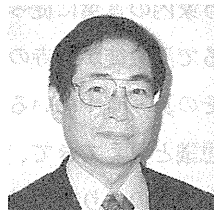
この言葉に巻頭のイームズ夫妻制作の映画を思い出し、食生活を中心に衣、住、環境と、バランスのとれた我が国のインテリアのサイクルをこれからも楽しみたい。食生活の改善により、アトピーを治した末娘に、色々なことを教えて貰い感謝!!



新しい人生を迎えて

八十 常充

今年2月、会社生活を終えて「自由人」となりました。そして、私の場合、時を同じくして住まいも変わり生活環境が大きく変わりました。



会社生活のときの重点は、仕事の流れに添った生活を余儀無くされるため、ゆっくり机に向かう時間も殆どなく、机は単に飾り物か物置の場にすぎませんでした。しかし今は、窓から見える松の木越しに、六甲の山々が一望出来る机に向って、これからの人生の策を練っています。ゆっくりと流れる時の中で…。

若い頃には、モノのデザインを指向し、「機能的な美しさとは何か」「同じ機能であれば美しい形とは何か」「細部に至るディテールの追求」「装飾性の排除」などをコンセプトに、家電製品のデザインに取組みました。しかし、そのデザインの意味性も人々の物欲を満たすため。商品のバリエーションと称し、色々な形となって世の中に溢れ出す。使う側の人たちの形（デザイン）に対する意識がなく、価格本位で「物」を買い集めることによって、そこは無秩序な「物」の置場と化してしまう。俗に良いデザインであっても、このような状況では生かされない。デザイナーとしての努力は何なのか？

私がインテリアデザインに関心を持ったのはこんなきっかけもありました。だれもが望む快適な暮らし、それは「物」と「空間」「素材・色」の調和であり、「設備」を加えた快適性にあります。今度は、自らが住まい方を変えて実験に入ったつもりです。そして、これからは、今までの物づくりの経験を生かし、高齢者・障害者への生活改善にも取り組みたいと考えています。

過去のデザインは、大量生産を前提とした「こうであろう」でしたが、今は「こうなのだ」に変わって来ています。こうなると、まだまだデザイナーが不足して、シニ

アデザイナーの価値が認められる時代となり、こんなことで、人生を再度スタートさせたいと思っています。

新しい展示会の試み

関西事業支部担当理事 夏原 晃子

御堂筋は大阪の古くからのメインストリートであり、銀杏並木の美しいことでも知られている。特に新緑の初夏には、心を洗われるようだ。その道修町の一角に日本板ガラス㈱のショールームの「グラスステーション・オーヴァ」があり、その名のとおり道路に面しているところには、ガラスが張り巡らされている。

この4月から5月の半ばまで、この場を使って私の作品を展示することになった。前方にはワイヤーに吊られた1枚の長い強化ガラスが空中を横切っていて、3つの卵形のアクリルをここに浮遊させる。その前方に立方体を重ね、積み上げ、化石のような塔を立てる。奥の台には、着色したもの、無色のもの、顕わなるもの、消え行くもの、虚像と実像、時を感じるものといった展示を行った。

こんな風にして、内側からは、道行く人々、走る車や木々の緑を背景に組み立てる。外側からは、ガラスを透かして、ショールームの中で、働いたり、談話したり、作品に見入る人なども、取り込んだオブジェに気付いて、覗きこんだり、立止まったり、横目で通り過ぎる街行く人がいる。それらは、オブジェを挟んで内と外のパフォーマンスとなる。このような新しい試みの場は、新しい出会いを生んでくれる。

街路は歩道も樹木も整えられていて、多くの人々が行き交う。歩道に面した空間を所存する建物を、このように解放している例はまだ多くはないが、単に自社の広告にとどめるだけでなく、開かれた空間を共有できれば、その企業のイメージを高め、親しみも持たれるに違いない。

その上、このオーヴァでは“休日でも夜間も楽しんでいただけます”と、夜間も照明を落とさず、あたりが暗くなればその輝きも一段と増し、周囲の注目を集めている。

下記㈱日本板ガラスショールームへ、アクセスしてみてください。

<http://www.nsg.co.jp>



日本板ガラス(株)ショールームの一角



中央は佐々木恵子新支部長

関西事業支部総会・懇親会

鈴木 儀雄

平成10年5月22日（金）午後5時30分より、ニューオオタニ大阪「すいせんの間」で、平成10年度支部総会が開催されました。正田友一議長の進行のもとで、小宮容一前支部長の挨拶に始まり、下記の議案が、新旧役員により提出され、原案通り承認されました。

- 1号議案 平成9年度事業報告書承認の件
- 2号議案 平成9年度収支決算書承認の件
- 3号議案 平成10・11年度役員選挙結果の件
- 4号議案 平成10・11年度運営委員会組織の件
- 5号議案 平成10年度事業計画書決定の件
- 6号議案 平成10年度収支予算書決定の件
- 7号議案 加入団体役員選出の件

総会後、同じ「すいせんの間」で懇親会が開催されました。佐々木恵子新支部長の挨拶に始まり、新会員の山本紗代子さん、同じく四国から出席された政岡寛之会員、また、広島の小田一美会員など、皆さんの楽しいお話しがあり、笑いの中で無事に閉会することが出来ました。

また、賛助会員、「ECHO」協賛会員の方々も、ご多忙の中、多数出席して頂きありがとうございました。



関西事業支部総会・会場付近にて

支部総会と関連行事を終えて

木村 洋子

去る4月25日（土）、平成10年度の支部総会が開かれました。開催場所は翌々日の27日に行われる筑後デザイナー協会主催「'98 DAC デザインセッション」に参加するという意向もあって、今回は佐賀に集うことになりました。

新緑の美しい季節、爽やかな土曜日の午後、市内の割烹旅館「あけぼの旅館」にそれぞれ出掛けて行きました。総会開催の前にゆっくりと昼食をとり、総会は午後1時を少し廻って始まりました。

三々五々集まってくる会員の方々は、殆どが車の利用で、「ワー、久しぶりで道に迷った・・・」という人あり、「わからんで、通り過ぎたぁー」という人ありで、食事中には、昔の思い出話も飛び出したりしました。

会場となった「あけぼの旅館」は、創業明治22年、109年の歴史を持つ老舗で当地には昭和初期に移転したとのこと。会議で使用した2階の和室はその当時のままで、その佇まいは、年代の落ち着いた艶を醸し、座敷での会議は、まるで昭和初期の文士の集まりのような雰囲気

気だと感じたのは、私だけだったのでしょうか・・・？ともあれ無事に総会は終了。

ホッとして次なる予定、「澤田痴唐人展」鑑賞のために佐賀県立美術館に足を延ばしたときは、すでに町並みは夕日が長い影を落としていました。閉館までわずか1時間。焦る気持ちを抑えながら、その見事な絵付けを、1点、1点覗き込む。伊万里の絵付け師として、技法の研究に徹したという痴唐人の放埒な色使いと技法には、現代デザインと古代ロマンの色柄が交差して、そこには土の暖かみと火の激しさを感じるものがありました。

翌26日、山川町にある柳川民芸の「我楽堂」を尋ねました。竹林に囲まれた工房は、穏やかな、静かな環境の中にあり、こんなところで創作活動をしているオーナーの村橋さんをはじめ、工房のスタッフが羨ましく思えました。

恥ずかしながらここで、私は初めて漆の制作工房というものを見ました。工芸制作とは縁のない私にとって、素朴で緻密な制作過程とその作業環境は、とても興味深いものでした。工房内の展示家具や敷地内を一通り見学をした後、美味しいコーヒーを頂いて「我楽堂」を後にしました。

デザインセッションの会場となっている佐賀ロイヤルホテルに向かう途中、大川の市内で昼食を済ませました。通り過ぎる大川市の町並みは、何年か前に訪れたときは、まるで雰囲気が変わり、静かで元氣なく感じました。やはりこの不況の影響が影を落としているのでしょうか。社会の経済機構に翻弄されていく中で、大切な文化や伝



「澤田痴陶人展」会場出口付近にて記念撮影



1998年4月3日（金）～26日（日）
佐賀県立美術館（佐賀市城内1丁目）



素材感いっぱいの工房「我楽堂」の商品

柳川民芸倶楽部



御花通り店／福岡県柳川市鬼童町1-5
Tel.0944.72.1011 Fax.0944.74.1932

統が引き継がれにくい情勢になっていくことに、悔しい
思いをし、また心を表現し、人を動かすとは何だろう？
とフッと考えたりしました。

さて、次は私が個人的にも楽しみにしていた「DAC
デザインセッション」です。

今年のセッションは、グラフィックデザイナーの水戸
岡鋭治氏と、雑誌「室内」・副編集長／岡田紘史氏との
対談形式で行われました。水戸岡氏は現在、JR九州の
デザイン顧問で、国鉄民営化の転換期に、現JR九州の
各部署でのリニューアルを数多く提案し、鹿児島駅など
九州管内の駅舎や列車を、建築家とはまた違った視点から、
公共性とデザインを結び付けた方です。

私は、公共交通機関が好きで、市外への仕事には、頻
繁に「ソニックにちりん」や「つばめ」を利用します。
その斬新で思い切った車体のフォルムや快適な車内、また、
カラフルに分かりやすくコーディネートされた駅舎
は、日常の移動をしばし「旅」に変えてくれる魅力があり
ます。

その「仕掛人」水戸岡氏とは一体どんな人物だろう？
私の頭の中で、ズーッと気になる存在でした。さぞかし
偉そうな先生だろうと思っていましたが、素朴で、とても
人間性のある人で、デザインはそれを使う人のために
生かされるべきだ、という考え方が、ほかのどの作品にも
一貫して表れていて、ただ「スゴイ！」としか表現で
きない共感がありました。

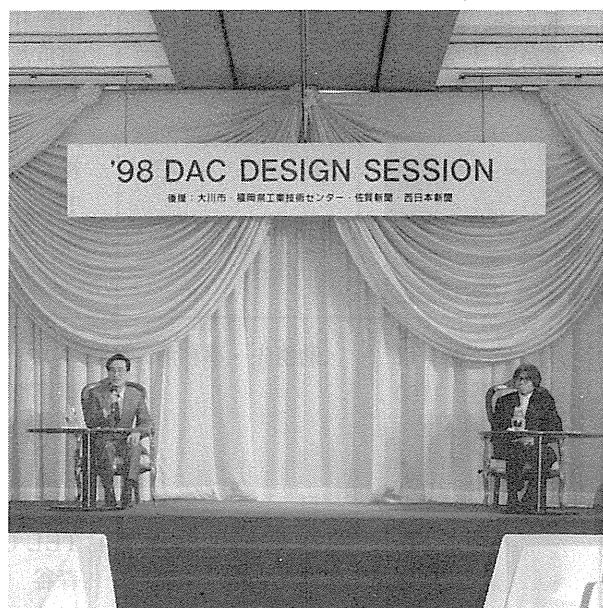
仕事のための表現のすべてを、複雑な手作業で行って
いるということも、コンセプトに説得力を持たせる一つ

の要因なのかもしれません。氏の話は、忘れかけている
何かに一つの反省を促してくれたような気がしました。
やはり最後は「心」なのでしょうね。

岡田氏は、口の悪い水戸岡氏をうまくリードしながら、
さながら「室内」の人物登場の記事が再現したと感じさ
せるほど、分かりやすく、また、楽しく息をつかせない
2時間を、さすがに巧くまとめあげていました。

「隣の人にデザインの話しよう」のテーマ通り、デ
ザインとは、まず、分かりやすく、気軽にアプローチで
きるものでなければならないのだと痛感しました。

私たちのJIDも、創立40周年を迎えメインテーマであ
る「つなぐ」を原点に、もっと一般の人々の共感を求め
て、視線を下げた活動に、見直しをしなければならない
のではないかと考えたのでした。

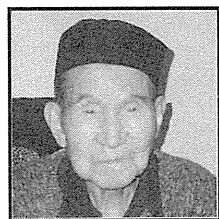


「'98 DAC デザインセッション」

JID 初代事務局長 工藤 廣忠さんを偲ぶ

名誉会員 榎田 均

JID が法人格を持つようになると、活動報告、会計処理から監査に至るまで、事務量の増加と処理の質も問われることとなり、専従の事務局長設置が進められました。当時、故・吉永 淳会員が、お近くにお住いの工藤廣忠氏とご面識で、この話が始まり、当時の故・豊口克平理事長のお骨折りで初代事務局長が実現出来ました。



工藤さんは元・工業技術院の地質調査所総務課長をされていて、「産業工芸試験所」の隣、溝の口に通勤されていました。そしてその頃、コーラスの指揮を執られたり音楽鑑賞を楽しんでおられました。

'69年（昭和44年）JID が社団法人となった年から約10年間、初代事務局長として、向う気の強いインテリアデザイナー団体の事務処理を、黙々とやって頂いたわけです。

工藤さんの所属していた地質調査所とは、各地の地下資源、地質を調査する国の機関で“山男”の大勢いる役所で、辺地に長期間出張する所員も多い変った役所という印象が強いところでした。また、工藤さんも若い頃、中国で調査活動をされていたと聞いておりました。あの四角い小さな老眼鏡越しに、愛用のハーモニカを奏で、荒野の岩とおつき合いしていた山男の予期しなかった人なっっこい面に、触れさせて貰えました。

工藤さんは明治37年生まれ、平成9年9月27日、肺炎で亡くなられ享年93才。1男3女の子供は夫々独立。90才の恵夫人は、脚の不自由さ以外はお元気で、静かにお暮しのようです。

今日まで知らずに過ぎたことを深く反省すると共に、工藤さんのご冥福を祈らせて頂きます。森谷事務局長の訪問記を参考に。

【 新 入 会 員 の 紹 介 】

- 新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしく願いいたします。
- 正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
あら い ゆう いち 荒 井 雄 一 会員番号 1159 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(有)新井雄一デザイン事務所 東京都渋谷区桜丘町29-17 〒150-0031 TEL 03-3780-0312 FAX 03-3780-2326 神奈川県横浜市青葉区あざみ野2-23-25 〒225-0011 TEL 045-901-8199 中川 千早・藤田 信一郎
かわ しま みち よ 川 島 道 代 会員番号 1160 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	インテリア・スタジオ サラミア 東京都渋谷区鉢山町14-4 〒150-0035 TEL 03-5456-2523 FAX 03-5456-2523 東京都渋谷区鉢山町14-4 〒150-0035 TEL 03-5456-2521 FAX 03-5456-2521 森谷 延周・長堀 映司

[会 員 の 異 動]

●ご面倒でも、1997～1998年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正ください。

● 正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
石 川 暢 子 (関東 P49)	勤務先	(株)日建スペースデザイン 東京都千代田区麹町5-4-19 セタニビル 〒102-0083 TEL 03-3264-6439 FAX 03-3264-6138
石 川 尚 (関東 P50)	事務所移転	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-27-4 小林ビル3F 〒151-0051 TEL 03-5414-8035 FAX 03-5414-8036
金 子 浩 子 (関東 P67)	事務所・自宅移転	神奈川県横浜市戸塚区小雀町1802 〒244-0004 TEL 045-851-1228 FAX 045-851-0821
木 村 戦太郎 (関東 P69)	勤務先 宿舎	筑波技術短期大学 聴覚部 デザイン学科 教授 茨城県つくば市天久保4-3-15 〒305-0005 TEL 0298-58-9350 FAX 0298-58-9418 茨城県つくば市竹園3-16-102-202 〒305-0032 TEL・FAX 0298-51-2627 携帯電話 010-88-05874
栗 原 幸 代 (関東 P71)	姓名 自宅移転	漆崎 幸代 北海道函館市元町5-20プレステージ 函館元町203 〒0044-0054
栗 原 哲 男 (関東 P71)	勤務先	(株)三越 建装事業本部 定年退職
十文字 洋 一 (関東 P84)	事務所移転 自宅移転	東京都世田谷区用賀3-11-15 CIビル2F-B 〒158-0097 TEL・FAX 変更なし 東京都町田市下小山田町4005-7 〒194-0202
高 田 公 平 (関東 P91)	自宅移転	東京都目黒区鷹番1-12-20-301 〒152-0004 TEL 03-3791-3523
遠 山 崇 (関東 P98)	事務所・自宅移転	東京都多摩市山王下1-14-14 〒206-0042 事務所 TEL 042-389-2960 FAX 042-389-2961 自 宅 TEL 042-389-2962
中 島 龍 興 (関東 P101)	事務所開設	中島龍興照明デザイン研究所 東京都中野区中央1-20-15-101 セントラルガーデン 〒164-0011 TEL 03-3366-4133 FAX 03-3366-4132
橋 本 勇 治 (関東 P108)	自宅移転	東京都田無市向台町5-4-1-414 〒188-0013 TEL 変更なし
宮 代 紀 子 (関東 P123)	勤務先	(株)西武百貨店 退社
本 澤 和 雄 (関東 P126)	事務所移転	(株)ハロデザイン研究所 千葉県船橋市松が丘3-32-4 〒274-0064 TEL 0474-67-0156 FAX 0474-65-3636

会 員 名	異 動 事 項	新
渡 辺 勇 (関東 P134)	事務所移転	東京都品川区大崎4-11-22 〒141-0032 TEL 03-3490-0408 FAX 03-3490-0863
中 村 憲 二 (中部 P145)	事務所・自宅移転	愛知県名古屋市名東区上社1-803 シティファミリー-上社604 〒465-0025 自 宅 TEL 052-777-3615 事務所 TEL・FAX 052-777-6839
宇 野 隆 (関西 P157)	勤務先 宿舎	飛騨国際工芸学園 岐阜県高山市漆垣内町3180 〒506-0812 TEL 0577-37-1387 FAX 0577-37-1367 岐阜県高山市漆垣内町3180 〒506-0812 飛騨国際工芸学園教育宿舎104
小 川 千賀子 (関西 P157)	事務所名称・住所	(株)デザインクラブ 代表取締役 兵庫県神戸市中央区相生町4-2-31 谷口ビル3F 〒650-0025 TEL 078-366-0852 FAX 078-351-2144
佐々木 桂 (関西 P162)	事務所開設	(株)インテリアプランニングシステム 京都府京都市伏見区桃山南大島町71-18 〒612-8017 TEL 075-622-4518 FAX 075-622-4575
高 峰 健 治 (関西 P165)	事務所開設	(有)エイドスジャパン 兵庫県西宮市小松西町2-6-17 グランドヴィラ 西宮406 〒663-8125 TEL 0798-41-5573 FAX 0798-41-5624
八 十 常 充 (関西 P175)	勤務先 自宅移転	松下電器産業(株)定年退職 兵庫県芦屋市平田町6-5-301 〒659-0074 TEL・FAX 変更なし
石 井 信 義 (九州 P181)	部署異動	大分県産業科学技術センター 材料開発部 大分県大分市高江西1-4361-10 〒870-1117 TEL 0975-96-7100 FAX 0975-96-7110

● 賛助会員

会 員 名	異 動 事 項	新
(株)アトリエG & B (賛助 P194)	担当者	村山 則夫
(株)イトーキ (賛助 P194)	担当者	デザイン開発室 チーフディレクター 佐藤 治行 TEL 03-5566-7201 FAX 03-5566-7090
(株)高島屋 建装事業本部 (賛助 P202)	担当者	設計室室長 竹下 淳一

◎会員名簿 1997～1998版 をもとにしてあります。

委員会活動に積極のご参加を

事務局長 森谷 延周

第30回通常総会が終了し、新年度の諸事業がスタートします。そして、平成10～11年度という新しい任期の中で、役員及び本部と各支部の支部長や委員長・委員も新しいメンバー構成となり、一部には活動し始めているところもあります。

ところで会員として在籍し、全員がどこかの委員会に加わって活動していること。つまり、「全員参加の委員会活動」は、理想的な姿かも知れませんが、個々の考えや事情などもあり、それは容易なことではありません。かといって、なんとなく協会に所属しているだけでは、もの足りないことも事実です。

年会費の請求書、各種イベントの案内や各種の送付物などの一方的入手だけではなく、自らの意思でことと想われる委員会に加わり、共に考えて実行することから得るものも、決して小さいものではありません。また、そこでの人生の出会いも大切にしたいものです。さらに、委員会に直接出向かなくても、今では様々な「通信」といった手段もあります。

委員会への参加へのキッカケは、知っている人から誘われてということが最も多いかも知れませんが、この機会に、自らアクションを起こしてみたいかがでしょうか。以下は、各委員会や各支部の役割分担の概略です。

お気軽に支部長や委員長・委員などの方に、声をかけてみてください。勿論、各支部事務局でも結構です。

「各委員会及び各事業支部の役割分担」

● 本部事業

選考委員会

JID 賞の審査・贈賞に関すること。

理事会より付託された選考・審査に関すること。

総務委員会

会員の権益・福祉・業務契約・報酬に関すること。

議案の起草・書式に関すること。

著作権・工業所有権に関すること。

儀典に関すること。

会務に必要な財源及び会計に関すること（収支予算、

決算など）。

財務計画に関すること。（会費、寄付、広告、協賛金など）

組織委員会

会員資格に関すること。

会員拡大に関すること。

会員の作品管理に関すること。

会員（正・賛助・名誉）のメリットに関すること。

国際委員会

国際交流、国際情報に関すること。

IFI(国際インテリアデザイナー団体連合)に関すること。

交流委員会

官公庁・他団体との連絡、提携、共同に関すること。

会員（正・賛助・名誉）相互の親睦、交流に関すること。

出版委員会

JID 出版物の企画・調整に関すること。

JID 出版物の企画・編集に関すること。

広報委員会

国内広報に関すること。

各委員会活動の情報収集。協会活動の記録の整理。

事業委員会

収益性を前提とした諸事業の企画・調整・推進に関すること。

受託事業・参加事業の調整・推進に関すること。

出版など経常化事業に関すること。

教育・研究委員会

研究及び研究発表に関すること。

JID ギャラリーの常設に関すること。

受託研究に関すること。

インテリアデザインの教育等の調査研究に関すること。

講習会等の実施に関すること。

デザイン保護委員会

デザイン 8 団体によるデザイン保護研究会に関すること。

著作権法改正などに関すること。

● 特別事業

定款改訂委員会

現行定款及び諸規定類の改訂に関すること。

所轄官庁要望に基づく改訂に関すること。

創立40周年記念事業実行委員会

式典・祝賀会に関すること。

講演・シンポジウム・展覧会に関すること。

記念出版に関すること。

活路開拓事業委員会

平成10年度活路開拓ビジョン実現化事業に関すること。

(全国中小企業団体中央会／助成事業)

●支部事業

各事業支部

各事業支部における会員の交流・親睦に関すること。

各事業支部における見学会、研修会、展覧会等に関する
こと。

本部の各委員会に対する協力に関すること。

フランスの食卓と生活の芸術 『ペネロップ日本展 '98』のご案内

関東事業支部会員 松原 文子

皆様にはご承知のことと存じますが、昨年の「フランスにおける日本年」に引き続き、本年は「日本におけるフランス年」に当たります。この特別な年にちなみ、前回、大成功を収めました『ペネロップ展』が、6年振りに開催されることとなりました。

会場は、新しくオープンした、お台場のホテルグランパシフィックメリディアンで、前回より規模の大きな展覧会となります。約20名のインテリアデザイナーたちが「フランスを巡る」をテーマに、魅力ある食卓空間の演出を手掛け、会員の皆様のご期待に、充分応える展覧会となりましょう。

この機会に、来日するフランスの15名のインテリアデザイナーたちを歓迎すべく、「来日デザイナーたちを囲む会」が、同展オープニング初日の夜に催されることとなりました。同じ仕事を持つ日仏の仲間として、交流を

深めて頂ければと願ひ、ご案内申し上げます。ぜひ、多数ご参加ください。

『ペネロップ日本展 '98』

- 開催期日／1998年7月29日(水)～8月16日(日)
(19日間) 10時～20時(入場は19時まで)
- 開催場所／ホテルグランパシフィックメリディアン
B1F 大宴会場 パレロワイヤル
- 入場料／2500円(税込 ガイドブック付き)
前売券 2300円

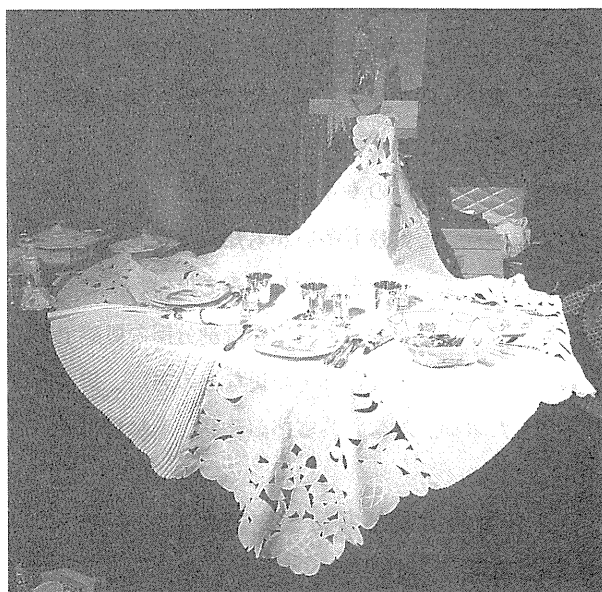
『来日デザイナーたちを囲む会』

- 日時／1998年7月29日(水)18時30分～20時30分
- 場所／ホテルグランパシフィックメリディアン
B1F大宴会場 パレロワイヤル
- 参加費／12000円(税込 パーティー参加費、
ペネロップ日本展 '98入場料を含む)

●お問い合わせ／お申し込み

ペネロップ日本展運営事務局 TEL 03-3406-3688

FAX 03-3406-3498



1998/5～6

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報(1998年通巻202号) 1998年6月30日発行

発行所／社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／泉 修二

〒163-1008 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集／JID 本部・事務局

印刷所／有限会社 コーエイ企画